

雲仙治山だより

令和3年(2021)年

1月発行

(vol.4)

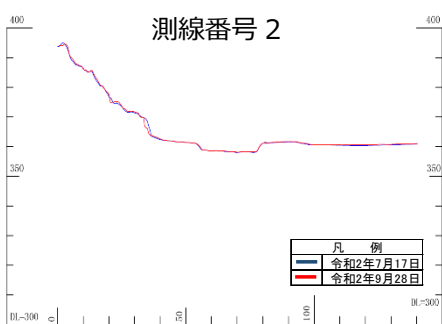
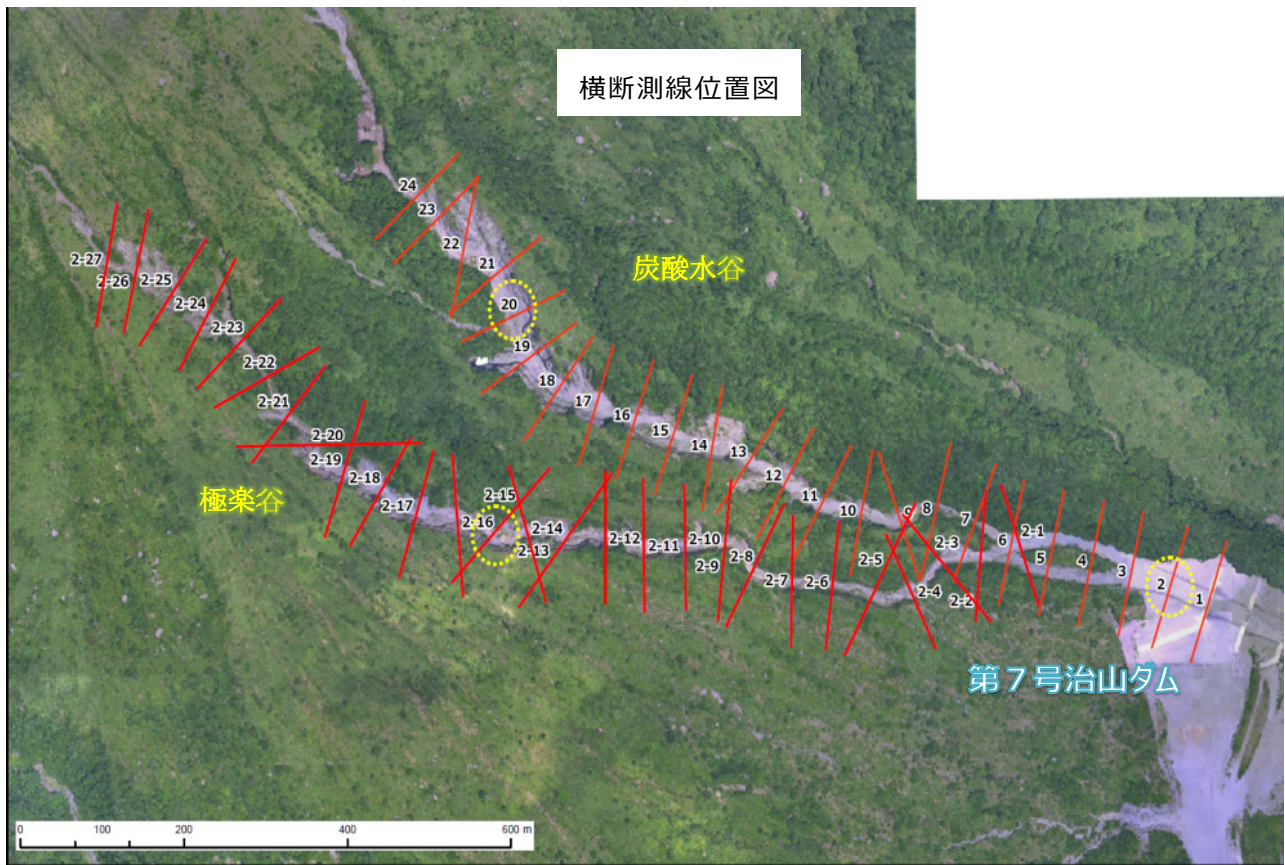
発行・連絡先 / 長崎県島原振興局農林水産部林務課

〒855-8501 長崎県島原市城内1-1205 電話 0957-63-5073

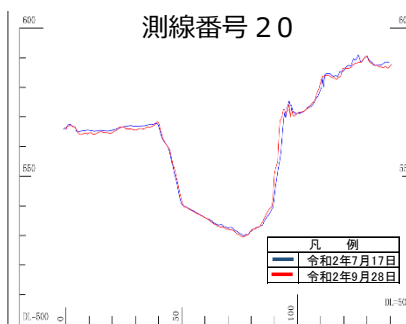
水無川(極楽谷・炭酸水谷)、赤松谷本流 調査観測結果(中間報告)

～土石流、地形の急激な変化等は確認されていません

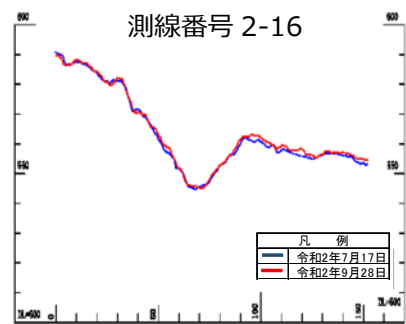
ヘリコプター撮影による写真および動画、SfM解析は、下図のエリアで重点的に実施していますが、SfM解析による横断面図の変化を梅雨明け(7月30日ごろ)前後の7月17日と9月28日で、比較したところ、土石流の発生、溪流の急激な変化は確認されませんでした。



N02 横断面図.第7号治山ダム上流



N020 横断面図.炭酸水谷上流



N02-16 横断面図.極楽谷上流

溶岩ドームの現状を関係機関で視察

令和2年11月17日、九州大学地震火山観測研究センターと島原市が、開催した「防災視察登山」に雲仙復興事務所や消防、警察、報道機関などともに、島原振興局林務課からも2名が参加しました。

溶岩ドームへは、仁田峠展望所を発着点とする往復約7kmの行程で、入山規制中の警戒区域内に入り、不安定に折り重なる巨石を越え、目的地である溶岩ドームへの到着までには2時間を要しました。

溶岩ドーム周辺は、噴気が湯気となり、もうもうと噴き上がり、前方の視界が無くなるほどでしたが、九州大学地震火山研究センター長によると、噴気が上がっている状態は比較的安定した状態であり、ここ10年間は噴気掃き出し口の温度も観測当初は500～800度だったものが、90度前後で落ち着いているとの事でした。

我々が実施する治山事業では、溶岩ドームの崩落による被害を防ぐことが目的ではありませんが、今回の防災視察登山に参加したことで、溶岩ドームを間近で確認し、現状を関係機関と共有することができました。

今後も、国有林治山対策事業との有機的な連携を図るとともに、土石流対策については砂防事業との整合性に配慮し、総合的に治山事業を推進してまいりたいと思います。



溶岩ドーム(岩尖)視察状況



溶岩ドーム周辺の視察状況

航空実播工(A=3.40ha)実施へ

令和2年度雲仙地区地域防災対策総合治山工事により、水無川(極楽谷・炭酸水谷)流域において、噴火災害により荒廃した山腹斜面の早期緑化を目的とした、航空実播工(A=3.40ha)を2月上旬に施工します。

なお、地域住民の皆様におかれましては、工事へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



航空実播工のイメージ